

馬絹古墳(川崎市)

まぎぬ

馬絹古墳はこの馬絹神社の隣接地に所在すると云う



これは馬絹神社社殿/この背後の高台に馬絹古墳があるようだ



馬絹神社の由来にも「当社隣接地に7世紀頃の馬絹古墳(神奈川県指定の貴重な史跡)が所在し」と記されている

馬絹神社の由来

馬絹神社の創建は、江戸元禄時代以前と伝えられています。元は、女体神社と称され、古くから地元の氏神として崇敬されてきました。御祭神は、伊邪那美命。この国を始め数々の神々を生み出した女神で、縁結び、開運招福、安産、五穀豊穡の神として祀られています。

馬絹の地は、縄文、弥生時代の遺跡が発掘されたり、当社隣接地に7世紀頃の馬絹古墳(神奈川県指定の貴重な史跡)が所在し、中世には楯毛庄馬衣郷とも呼ばれ、地名の言われにもなっているなど、古代からの長い歴史を持っています。馬絹神社は、馬絹の平台、寺台、矢尻、矢中、川端、日向根、宮本の各地域と旧馬絹の小台、大塚、宮崎の地域、及び昭和十六年軍用地接収により、移転を余儀なくされた現在の三ツ又地域の人々の氏神として敬仰奉賛されてきました。

明治四十三年、近隣の八幡、三島、熊野、白山神社の四社を併合し、神明神社に改称されました。この時、旧三ツ又地域の熊野神社の土地がわかり、現在の広大な境内地が確保され、村社となりました。昭和五十四年に神楽殿、六十一年に総檜造りの本殿を造営し、社号も神明神社から馬絹神社に改称され、重厚壮麗な姿で今日に至り、人々に篤く親しまれています。又境内には昔、村の社であった八坂神社、秋葉神社も祀られています。また、重壯美麗な大神輿が奉納され、秋季例大祭を始め恒例の様々の祭事が盛大に行われ、多くの参拝者が訪れています。

また、馬絹神社の造営並ひに大神輿奉納に当たり、多大なる御尽力、御寄進を賜りました氏子崇敬者各位に深甚なる感謝の意を表し、この柱礎と共々、当神社の益々の隆盛を祈念するものであります。

平成二十五年十月吉日(第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉祝日)

馬絹神社宮司

長崎範城

馬絹神社奉賛会会長

田邊英夫

さて、これが馬絹神社の背後に「馬絹古墳公園」として整備、保存されている馬絹古墳/主体部は複室構造の両袖型横穴式石室の円墳/7世紀後半の築造



近づいて見たところ



左手から見たところ



そこで左手を見たところ



その更に左手には石碑や説明板があった



こな塩梅



そこで振り返って墳丘を見たところ



築造時期的にも近くに所在する古代橘樹郡衛造営に関わった豪族の古墳ではないかと云われるが・・・

馬絹古墳

馬絹古墳は、現状の墳丘の直径が約33m、高さが北側で約3m、南側で約4.5mほどの円墳です。墳丘の周りには幅約3.5m・深さ約1.5m前後の溝がめぐらされています。

この古墳は、まずローム層(赤土)まで掘りこみ、遺体を安置する石室を組み立て、その外側に赤土と黒土とを順序よく細かく積み上げてつくられています。また墳丘の表面には、手のひらほどの大きさの河原石が敷きならべられていました。

石室は、全長が9.6mもある大形の横穴式石室で、内部は3つの部屋に分けられています。この石室は、四角に切った泥岩を組み合わせながら、天井に向けて少しづつせばめて積んでいく「持ち送り式」という技法で、ていねいにつくられています。そして石が接合する部分には、白い粘土が帯のように塗られており、ほかにも同じ白い粘土を使って、まるい形や今では形がはっきりわかりませんが、何らかの模様が描かれていたようです。

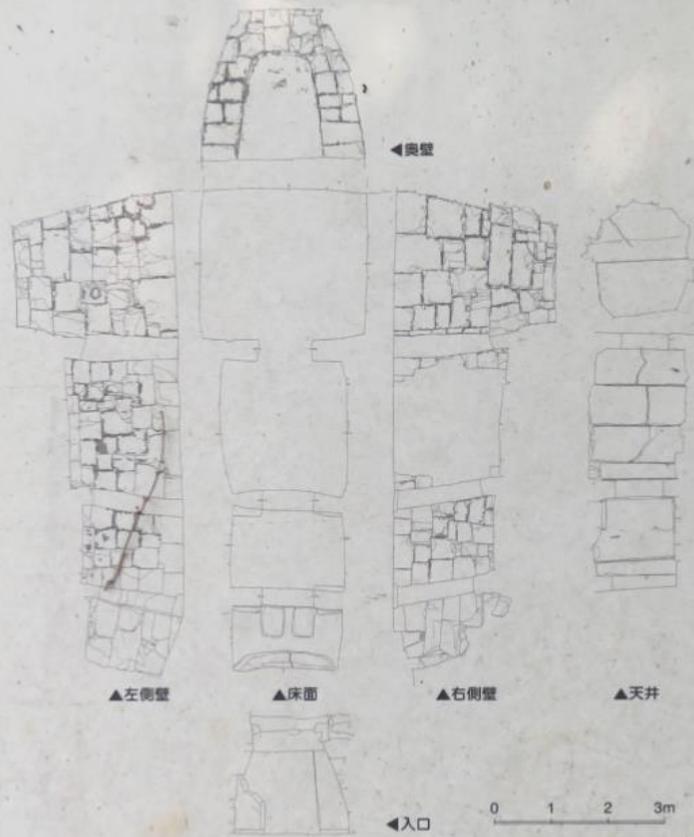
馬絹古墳がはじめて発掘された時には、すでに遺体は残っていませんでしたが、鉄の釘が発見されていますので、遺体は木でつくった棺に入れられていたと思われるかもしれません。しかも鉄釘は79本もありましたので、棺は1つだけではなかったようです。ただ、遺体といっしょに置かれていたと思われる品物(副葬品)は、盗掘されて持ち去られてしまったようですので、馬絹古墳が作られた年代などがわかるはっきりした証拠は不足していますが、石室の形やつくり方、設計の方法などから、7世紀の後半ごろにつくられたと考えられます。

これらは、昭和46年の発掘調査や平成2年の保存整備調査などによって明らかになりました。そして、馬絹古墳は古墳時代の終わりごろの様子を伝える重要な古墳として、昭和46年12月21日に神奈川県の史跡に指定されました。

平成6年3月

川崎市教育委員会

横穴式石室の内部



▲石室（奥室→入口）



▲奥壁



▲奥室側壁（拡大）



▲奥室側壁の円文

横穴式石室の実測図

馬絹古墳公園ガイド

馬絹古墳は、古墳時代の人々から1,300年もの時間の流れをこえて私たちに伝えられた重要な文化遺産です。川崎市教育委員会では、この馬絹古墳を大切に保存していくとともに、憩いの場・生涯学習の場として皆さんに活用していただくために、この公園を整備しました。

- 古墳の石室は壊れる危険がありますので、ステンレス鋼材で補強しています。中には入れませんが、貴重な文化財を保護するために、どうかご理解ください。
- 石室の模型は、川崎市市民ミュージアム(中原区等々力緑地内)に展示されていますので、あわせてご利用ください。
- 馬絹古墳は貴重な文化財であるとともに、祖先のお墓でもあります。古墳の上には登らないようにお願いします。
- 公園整備に際しましては、馬絹神社のご理解とご協力により、土地を一部お借りしています。



▲墳丘実測図



▲墳丘の断面



▲石室内部の補強

これは劣化していてよく読めない

古墳への招待

【古墳とは何か】

古墳とは、土や石を高く積み上げてつくった古い墓のことをいいますが、地下室のような地下式横穴墓や洞穴のような横穴墓などの古い墓も、古墳の仲間と考えられています。

【いろいろな形の古墳】

古墳には、かぎ穴のような形をした前方後円墳や鳥竊古墳のように丸い形をした円墳、四角い形の方墳、帆立貝のような形の帆立貝形古墳などの種類があります。

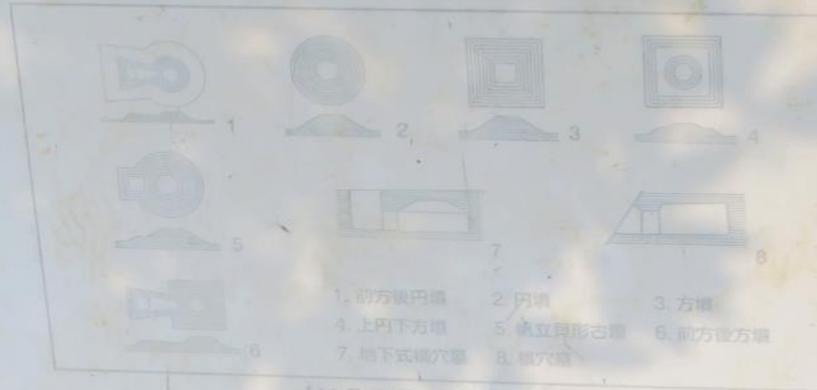
【古墳のしくみ】

（外部のしくみ）

古墳の表面には、墓石といって河原石などを敷きならべたり、高のような形や家・人物・動物などの形をした埴輪をならべているものがあります。また、古墳のまわりには、周溝(溝)と呼ばれる溝を掘りめぐらしている古墳が多くあります。

（内部のしくみ）

古墳の内部には、遺体を安置するための石室があります。ここは古墳にとって一番大切な場所です。石室には竪穴式石室と横穴式石室の2種類があります。また、石室をつくらなくて、木の棺を粘土などで包みこんで埋めただけのものもあります。竪穴式石室や木棺は古墳時代の初めころからつくられていましたが、横穴式石室は古墳時代の中ころになってからつくられるようになりました。

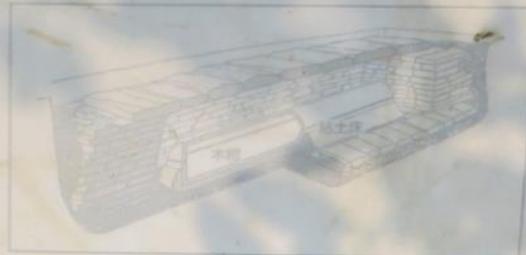


【いろいろな形の古墳】

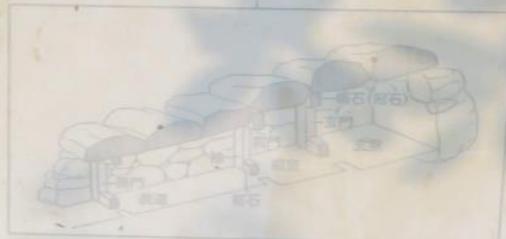
【古墳のつくり方】

古墳のつくり方には、いろいろな方法がありますが、代表的なつくり方をみてみることにしましょう。古墳をつくるには、まず場所を決めてから設計図をつくりまします。そして、設計図にしたがって地面に墳丘や周溝、石室などの位置に線を引きしるしをつけます。それから周溝を掘り、土を盛り上げて墳丘をつくりまします。土を盛り上げるときには、墳丘がくずれないようにするために、赤土と黒土とを順序よくつき固めていく版築という方法がよく使われています。石室をつくる場合は、墳丘を盛り上げながら石室を組み立てていき、最後に天井の石をのせて、つくり上げまします。そして、墳丘の形をととのえてから河原石(墓石)を敷きならべ、埴輪を配置すると古墳は完成まします。

古墳時代の人々は、この古墳のまわりで、葬式や故人をしのぶ儀式をしていたと思われるまします。



◀ 竪穴式石室のしくみ



◀ 横穴式石室のしくみ

※図は大塚初重・小林三三郎「古墳辞典」(東京堂出版)から引用まします。ただし、一部には手を加えてまします。

参考ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000000085.html>

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2017/05/20/010000>

<https://ameblo.jp/edo-sanpo/entry-10710304908.html>

<http://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-391.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/seoto_kisyuu/61821386.html?_yvsp=6aas57W55Y%2Bk5aKz

<http://gogohiderin.blog.fc2.com/blog-entry-990.html>

<https://sanpo-nikki.com/etc/maginukohun/>

<http://www5d.biglobe.ne.jp/stssk/kodai/0232.html>

